授業内容

1. 科目の履修年次及び単位数

卒業するまでに修得すべき単位数

各科及び専攻における、卒業までに修得すべき単位数の内訳は、次の通りです（学則第35条）。

専攻等	一般教育科目			専門教育科目		計
	教養科目	外国語科目	保健体育科目	基礎科目	専攻科目	
日本画	20	8	2	29	65	124
油 画	20	8	2	29	65	124
彫 刻	20	8	2	29	65	124
芸術学	20	8	2	34	60	124
視覚デザイン	20	8	2	19	75	124
製品デザイン	20	8	2	18	76	124
環境デザイン	20	8	2	17	77	124
工芸科	20	8	2	20	74	124

なお、教員免許あるいは学芸員資格の取得を希望する学生は、上の表の科目に加えて、それぞれ教職に関する科目や博物館に関する科目を履修し、単位を修得する必要があります。

2. 授業科目の履修方法

(1) 履修科目の選択

進級あるいは卒業の単位修得（卒業の要件）のために履修すべき科目には、必修のもの（必修科目）と選択して履修するもの（選択科目）とがあります。また、これらの科目とは別に、希望により受講できる科目（自由科目）があります。教職に関する科目や博物館に関する科目にも、資格の種類ごとに、その資格を得るための「必修科目」と「選択科目」とがあります。

(2) 授業科目の種類

①教養科目

教養科目は、A・Bの各区分からそれぞれ1科目2単位以上を選択履修し、卒業までに総計20単位以上を修得しなければなりません。

「日本国憲法」は、教員免許状取得希望者は必修科目です。

学芸員となる資格の取得希望者は、「生涯学習概論」が必修科目となっています。

②外国語科目

美術科各専攻では、1年次で4単位以上、2年次で4単位以上を、各年次の配当科目の中から選択履修しなければなりません。

デザイン科各専攻および工芸科では、1年次には「英語(一)」を、2年次では「英語(二)」を必修とします。

また全専攻で、自由科目として1・2年次に「フランス語会話(一)・(二)」、3・4年次に「フランス語(三)・(四)」を履修できます。

「英語(一)・(二)」については、科目ごとに受講できる専攻を指定しています。

「フランス語(一)」は授業内容に応じてA・Bの2クラスがあり、授業時間帯も異なります。また、「フランス語会話(一)・(二)」を履修する学生は、フランス語の基礎を身に付けていなければならず、担当教員との面接が必要な場合があります。

「ドイツ語基礎」の履修を終えた学生は、自由科目として芸術学専攻の専門教育科目である「専門語学(ドイツ語)」を履修できます。「イタリア語基礎」、「専門語学(イタリア語)」についても同様です。

③保健体育科目

「体育実技」は、1・2年次の計2単位は必修で、3年次の履修は自由です。

④専門教育科目（基礎科目）

専門教育科目（基礎科目）のうち必修科目は、日本画専攻は23単位、油画・彫刻専攻は25単位、芸術学専攻は28単位、視覚デザイン専攻は16単位、製品デザイン専攻は15単位、環境デザイン専攻は14単位、工芸科は17単位です。

「基礎科目集中履修期間」内に履修すべき単位数は、以下のとおりです。

授業科目	単 位	美術科				デザイン科			工芸科	備考
		日本画	油画	彫刻	芸術学	視覚	製品	環境		
絵画Ⅰ	演習	1			▲3	▲1		▲1		前半
	演習	1			■3		■1		■2	後半
絵画Ⅱ	演習	1					①			前半
	演習	1				①				後半
絵画Ⅲ	演習	1			▲3	▲1		▲1		前半
	演習	1			■3		■1		■2	後半
彫刻Ⅰ	演習	1				▲2	▲2			前半
	演習	1						■2	■1	後半
彫刻Ⅱ	演習	1				▲2	▲2			前半
	演習	1						■2	■1	後半
デザインⅠ	演習	1	▲1	▲1	▲1	▲1			▲2	前半
	演習	1	■1	■1	■1	■1				後半
デザインⅡ	演習	1	▲1	▲1	▲1	▲1			▲2	前半
	演習	1	■1	■1	■1	■1				後半
デザインⅢ	演習	1	▲1	▲1	▲1	▲1			▲2	前半
	演習	1	■1	■1	■1	■1				後半
工芸Ⅰ	演習	1	▲2	▲2	▲2	▲2		▲2		前半
	演習	1	■2	■2	■2	■2	■2	■2		後半
工芸Ⅱ	演習	1	▲2	▲2	▲2	▲2		▲2		前半
	演習	1	■2	■2	■2	■2	■2	■2		後半
工芸Ⅲ	演習	1	▲2	▲2	▲2	▲2		▲2		前半
	演習	1	■2	■2	■2	■2	■2	■2		後半
工芸Ⅳ	演習	1	▲2	▲2	▲2	▲2		▲2		前半
	演習	1	■2	■2	■2	■2	■2	■2		後半
映像メディア	演習	1							①	前半
	演習	1						①		後半

専門教育科目（基礎科目）のうち、自由科目として「造形表現工房（KOUBOU 科目）」が開講されています。これらの各授業では、専攻の枠を越え、教員の研究分野を活かし、さらに学内の多くの設備を有効活用して学生の学習や表現活動の支援を行います。よって、通常の授業とは異なり、学生の積極的な取り組みや教員独自の授業構築などフレキシブルな授業形態にその特徴があります。ただし、自由科目は学生の自由な選択となり、進級・卒業に必要な科目に算入することはできません。

⑤専門教育科目（専攻科目）

専門教育科目のうち、専攻科目については、芸術学専攻および工芸科には専門分野に応じた選択必修科目がありますが、これら以外の学科・専攻では所定の全科目が必修です。

⑥教職・教科に関する科目

教員免許状取得希望者は、本学学部を卒業するために必要な授業科目の単位の他に、教職に関する科目の単位を修得しなければなりません。さらに、学科・専攻および免許状の種類に関わらず、教員免許状の取得を希望する者は、文部科学省令で定める科目の単位（日本国憲法2単位、体育2単位、外国語コミュニケーション2単位、情報機器の操作2単位、計8単位）を修得しなければなりません。

教科に関する科目及び文部科学省令で定める科目の多くは、卒業に必要な科目の中に含まれています。ただし、所属学科、専攻によっては教科に関する科目を追加履修が必要となるので、注意してください。

⑦博物館に関する科目

学芸員となる資格の取得を希望する学生は、教養科目、外国語科目、保健体育科目、専門教育科目のほかに、博物館に関する科目を履修しなければなりません。